

ちょうふの畑 その②



当時の背負籠が壁にかかる蔵の庭先で 94 歳になる守作さんにお話をいただきました。



7/11「そぞろ歩き」 柴崎地域の農家に環境モニターでおじゃましました。

大正4年生まれの鴨志田守作さんに子供の頃の思い出をお聞きました。採れた野菜を竹籠（テカゴ）に入れ、淀橋の野菜市場まで牛車で運んだこと。カイコを座敷で飼っていたので、おじいさんと2階で寝たこと。コンニャクを作っていた別の鴨志田さんのところまで当時18銭だった重箱ほどの大きなコンニャクを買いに行ったこと。慈恵医大が建設を始めた頃ここから鉄骨が立つのが見えたこと。等々。

他の農家でも昭和40年に野川の氾濫があったことや田んぼもたくさんあったことなど色々懐かしいようすをお聞きすることができました。

3000坪もある専業農家の鴨志田さん。出来た野菜は近郊の伊勢丹ストアに出荷しているとのこと。温室の中は時期をずらして栽培しているトマトやキュウリがきれいに並んでいます。その他、枝豆・ゴーヤなどの夏野菜が盛り。一年中切らすことなく野菜を生産している畑は拝見するだけで豊かな気持ちになりました。

調布の自然 田んぼの生き物 編

モノアラガイとサカマキガイ

梅雨も明け、夏本番の暑い季節になりました。田んぼのイネも青々としています。

今回紹介するのは、この田んぼにすむ巻き貝の仲間です。

モノアラガイ（写真左）は殻高20mm前後になる小型の淡水性巻き貝です。本種は触角が平たく、三角形をしていることが特徴で、他の仲間と見分ける時のポイントになります。以前は水田や用水路、池等に普通に見られましたが、生息場所における水質の悪化や、生息場所自体の消失に伴い減少し、今では環境省のレッドリストの「準絶滅危惧」に

選定されるまでになってしまいました。

もう一種のサカマキガイ（写真右）は、モノアラガイより一回りから二回りほど小型で、モノアラガイよりやや黒い印象を受けます。本種は漢字では「逆巻き貝」と書きますが、これは、普通の巻き貝が「右巻き」なのに対し、本種が「左巻き」であることに由来します。触角は細長い糸状で、巻き方と触角を見てモノアラガイと区別することが出来ます。本種はヨーロッパ原産の帰化動物で、今では日本中どころか、世界中に分布を広げています。モノアラガイと同じ場所に生息しますが、モノアラガイよりも水質の悪化に強



いたため、モノアラガイが減少する一方で、どんどん数が増えてきています。このように、田んぼの巻き貝一つとっても、環境の変化が生き物に与える影響をかいま見ることが出来ます。調布市内でもごく限られた田んぼですが、このような小さな生き物の大切な住みかたとなっていることを思い出しながら、イネの成長を見守りたいものです。（石川和宏）

多摩川今昔⑧

地元生まれの戸部英貞先生に、ちよっと昔の調布のようすを連載していただいています。

崖線

旧多摩川やその支流の浸食によって出来た傾斜面を崖線と呼んでいるが、市内には武蔵野段丘の南側に添った武蔵野段丘崖線（国分寺崖線）と立川段丘南縁の現多摩川流域北側の立川段丘崖線（府中崖線）が知られている。

崖線は傾斜地であるため、近年までは開発から免れてきたが、都市近郊の最後の開発地として急激に減少している。調布市内では深大寺地区と若葉町地区の国分寺崖線が比較的豊かな緑を保っている。

一方府中崖線（布田崖線）は、開発によって緑が消失、僅かな雑木林が点在するに過ぎない。

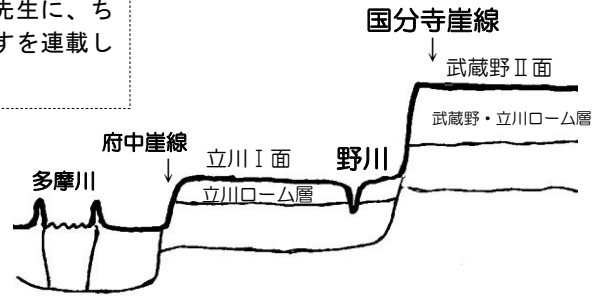
崖線の下には伏流水が各地で湧き出し、サワガニ、ホトケドジョウ、ス

ナヤツメ、イトヨなどの冷水を好む動物が棲息していた。

サワガニは市内各地の湧水地で見られたが、呼び名だけが現在も残る深大寺地区の「カニ山」にはアルピノ（白化した生物）のサワガニが見つかり、子供たちにとっては宝の山で、遠くからそれを探しに訪れていた。

布田崖線下の湧水地にはワサビ田があり、そこに棲息するホトケドジョウ（当時ババドジョウと呼んでいた）を捕りに入ったり、水路をせき止めてイトヨ捕りをして怒られたのも今は懐かしい思い出。

多摩川本流域の湧水では吹き上げる砂の中で繁殖期に入ったスナヤツメが



身体を絡み合うようにして踊っていた。

崖線は残っているが、崖線下の湧水地は地下水位の低下が原因か、大半の湧水がなくなり埋め立てられてしまったのは残念だ。

地下水位の低下は各地で報告されているが、樹木の伐採だけでなく、下水路の充実で雨水の地下浸透がなくなり、直接河川に流れ込んでしまうのが大きな原因となっている。各家の屋根に降った雨を地下に戻す浸透枳の設置で湧水が復活する日が訪れるだろう。

活動記録コーナー

◆若葉の森の会

6月14日（日）都立小宮公園（八王子）見学 参加者8名

調布市役所を9:45に出発、10:40現地到着。早速、曇天の空の下、整備された木道を歩き、野鳥の鳴き声を背にしながら萌芽更新の状況を観察しました。

コナラなどの萌芽更新が毎年行われていますが、育つ木もあれば育たないものもあることや切株の周囲の下草も全て刈ってしまうことなど、多くのことを学びました。

小宮公園は武蔵野の雑木林そのもので、植生も第三緑地とはずいぶんと違いました。また、春に咲くキンランと夏に咲くウバユリやギボウシなどの花が咲いていました。

6月16日（火）曇り 参加者3名

「花いっぱい運動」の助成を受け、第三緑地入口にある花壇に花を植えました。花壇の周りには、ヘビイチゴの赤い実が沢山見られます。

その後 6/25・7/12・7/23 と草刈などの活動を行いました。

（住田）



都立小宮公園にて

◆カニ山の会

7/11（土）晴れ 参加者8名

東樹林西側境界部の斜面に出来た人の「けものみち」をふさぐ目的で、林内の低木（ヒイラギ）を掘取り「けものみち」の上に移植。また民家側に人を寄せ付けない・花の咲く野草の保全も出来る等の観点から笹刈りを控えていた樹林南側地区については通路沿いの斜面地のみ笹刈り。

ここの林は「暗さ」と「種を作れない野草」の状況から見て花の目立つ野草の復活は、可能性が低い。しかし「花の咲く在来野草」もあるのでササ刈りなど注意深くやる必要がある。今後も「隣接民家が隠れるブッシュ帯部分」と、以前発見した「花の咲く在来野草」の生育環境を残しながら樹林管理をやっていくことになるだろう。（活動報告より）

◆環境モニター

7/11（土）晴れ そぞろ歩き 参加者17人

柴崎駅前から柴崎1丁目あたりに残る農家を何軒か訪れた。現在では菊野台地区にある京王線の駅名が柴崎になっている理由や昭和2年まで甲州街道の北側に軌道があったことなどを地図で確認。

94歳になる守作さんからはキツネにばかされたことがあるというお話うかがい、参加者の中に「母も同じような体験をしたそう

調布の生きもの調査 2009

7/18 (土)
アブラゼミの鳴き声が聞こえる中、野草園前に20組ほどの親子が参加して生き物調査が行われました。



何種類ものチョウを追って子ども達が走り回ります。みんなの虫かごにはあつという間にシテムシやバッタ、ゾウムシなど色々な虫が入れられました。生き物調査実行委員会のスタッフがすかさず記録をしていきます。

講師の石川さんと宮治さんから虫の名前や特徴を聞いた後、みんなでカニヤマ広場に移動。ここではカラスに喰われたのか腹の無いカブトムシの死骸を見ましたが、運のいい子どもは樹上から落ちてきた立派なカブトムシを手に入れました。一旦解散のあと佐須の田んぼで巻貝やヌカエビを見て解散。小さな自然の生き物と触れ合った楽しい半日でした。(NK)

◆野川で遊ぶまちづくりの会 *****

田んぼの植物 (田んぼの学校から)
～サルスベリ占い～

おかげさまで、私達が体験学習させて頂いている田んぼのイネは、梅雨明けの陽光を浴びて毎日すくすくと育っています。お米の豊作は古来より、人々の切なる願いです。従って、イネの豊凶を占う方法やいい伝えは色々あるようですが、私が大学時代、農業の先生から教えて頂いたもののひとつに、「サルスベリが多く咲く年は豊作」というものがありました。

当時、農業経験がなかった私は「へえ、不思議。」としか思いませんでしたが、その後、タイ米輸入で記憶に残る1993年の凶作の年、確かにサルスベリの花がほとんど咲かなかったのです。それ以来、毎年サルスベリの花の量が気になるようになりました。

なぜサルスベリなのでしょう？当時の先生は、サルスベリの花芽分化の時期がイネのそれと同時期で、その時の

天候と関係があるのかもしれないけど、はっきりとはわからないとおっしゃっていたと記憶しています。

ともあれ、今年も色鮮やかなサルスベリがたくさん蕾をつけて夏の空の下に咲き始めています。それを見ると今年も大丈夫かなとホッとします。

イネとサルスベリ、全く姿形の違う植物ですが、不思議な関係があるようです。

(田んぼの学校 Y.I.)



です。当時は本当にそんなことがあったのですね。」と感想をもらされた方もいた。

他の農家でも「野川が現7中の角でクランクになっていて水深があったので飛び込みをして遊んだ。今のよう護岸工事がされる前は氾濫して床下浸水したこともあった。深大寺用水が敷地横に流れていた。」など色々なお話を聞くことができた。

また養蚕農家があった昭和10年頃から残る大きなクワの木や120年以上経つという立派なコブシも見学。コブシの下には当時水神様が祭られていたそうで、今でも小さな祠が残っていた。

光照寺は1600年頃の創設と言われている古いお寺だ。館内に昭和の中頃の航空写真が飾られており、当時は畑の中に数軒の農家があるだけの所だったことがよくわかった。

歩き終わってみて、このあたりは今でも畑が多く調布市内でも落ち着いたやすらぎのある地域だと感じられた。おじゃませさせていただいた農

家の皆さん、様々な説明ありがとうございました。(環境モニター 鍛冶)



◆入間・樹林の会

6月21日 朝からの大雨で参加者3人。初めてというほどの大雨の中、ごみ拾いをしながら樹林地内を見てまわりました。おかげで、坂道側の雨水の流れもみることができ心配していたキチジョウソウへの影響もなく一安心といったところです。広葉樹の葉が茂ってきたこともありかなり薄暗い樹林地内で、剪定して今年は諦めていた白のアジサイが雨に濡れてしっとり咲いていました。また、驚いたのは夏草の勢いのすごさで、1月前に刈り込んだ三角地はもの見事に草ぼうぼう、たく

ましい生命力です。咲いていた花は、ヤブミョウガ、ドクダミ、アジサイ、ハルジオン、ツユクサ、オニタビラコ、ヌスビトハギ。ヤブミョウガの実実は青くなってきました。

7月19日 雑木林広場の駐車場側の笹刈りと雑木の伐採を行いました。散策路から見えるところは特に人の手が入った事が分かるようにしていこうと5人で黙々と作業を続けました。笹刈り後は、ヤブランの花が目立つようになり、散策の人の目を楽ませることでしょう。木立を吹き抜ける風もとても心地よいものです。他にヨウシュヤマゴボウ、ミズヒキが咲き、メジロ・キジバト、蜂やカタツムリもいました。(安部)



☆ 環境市民 エコ活動カレンダー & おしらせ ☆



昆虫観察会
昆虫を捕まえて

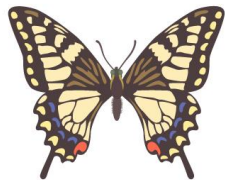
森のハカセになろう！

8月29日(土) 10:00~12:00

都立神代植物公園東地区エリア
(公園の外 深大寺五差路西)

講師：小西正康先生(農学博士)

参加費：無料 当日受付



夏休みの最後、昆虫を捕ったり、シュロバッタを作ったり！ そうめんも食べるよ。

主催：22世紀の森づくり・神代

◆ひとくちメモ◆ マメコガネ

生き物調査で教えていただいたマメコガネ。日本からの侵入者、ジャパニーズビートルと呼ばれアメリカなどで知られているという。外来生物は新天地では天敵がいらないという状況になることが多く、我が物顔で農作物を荒らすことが多い。有名な「沈黙の春」(レイチェルカーソン著)によると1916年にニュージャージーで発見され、その後ミシガン州を始め多くの州でアルドリンなどの劇薬を撒いて退治しようとし、鳥や家畜など多くの動物(勿論人間も)が影響を受けたという。結局当時効果的だったのは幼虫に寄生するツチバチだったそうだが、自然との共生はいつの時代も難しい課題である。

読者のお便り 7/23の夕方6時半頃 我が家(深大寺北町1丁目)で、ヒグラシの初鳴きを確認しました。当日は梅雨の戻りの感がする天気でしたが、暑かった日が続いたので待ちきれずセミも地中から出て来たのでしょうか。

Schedule Schedule 全ての会でメンバー随時募集中！ Schedule

◆カニ山の会

原則毎月第2土曜に深大寺自然広場東樹林の保全活動を行っています。参加希望の方は集合場所(野草園横)へ直接おいで下さい。

年会費500円+保険料

●8/8(土) 10:00~12:00

/樹林の保全活動

●9/12(土) 10:00~12:00

/樹林の保全活動

問合せ 環境政策課 042-481-7086

は直接集合場所入間地域福祉センターへおいで下さい。

●8/9(日) 10:00~12:00

●9/13(日) 10:00~12:00

/各回とも樹林の保全活動

詳細は緑と公園課 481-7083へ

※各樹林地の保全活動は、調布市との協働でおこなっています。詳細については、記載の担当課にお問い合わせ下さい。

◆環境モニター

8月はお休みです。9月は第1土曜に多摩川で野草観察の予定です。

問合せ：環境政策課 042-481-7086

◆入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に活動しています。参加希望の方は直接入間地域福祉センターへおいで下さい。

●8/16(日) 9:30~12:00

/樹林の保全活動

●9/20(日) 9:30~12:00

/樹林の保全活動

問合せ 環境政策課 042-481-7086

または緑と公園課 042-481-7083

◆若葉の森の会

原則毎月第2日曜に若葉町第3緑地で保全活動を行っています。参加希望の方

◆野川とハケの森の会

●8月のスケジュールは未定

●9/12(土) 10:00 カワセミ館集合

野川清掃

問合せ：070-5566-3437(大山)

http://www.ne.jp/asahi/nogawa/hake/

入会方法：HPのメールから、または

イベント等随時(入会金2000円)

今回の野川清掃参加者はカワセミ館に直接集合(その場で参加登録)

ちょうふ環境市民会議

会議日程

役員会 8/27(木) 19:00~21:00

たづくり11F

交流事業・野川清掃などについて

運営会議 9/8(火) 19:00~21:00

たづくり1002会議室

交流事業について

【編集後記】

緑のカーテンとして植えた我家のゴーヤにいくつか実がなり、美味しく食べることができた。けれど葉の茂り方がイマイチ。ゴーヤの品種のせいかな、それとも愛情が足りなかった?(鍛冶)

夏本番！早朝散歩のコースに雑木林をいれておくと、カブトムシに出会えるかも・・・。

ホームページ「ちょうふ環境市民会議」も見て下さい。(江刺)



市民発 ちょうふの自然だより

この「自然だより」は2009.3.15に設立された「ちょうふ環境市民会議・広報部会」が隔月で編集発行、身近な自然情報を発信しています。自然に関する情報や写真など、いつでも<http://chofu-kankyo-shimin.org/>までお寄せ下さい。あなたの“ちょこっとエコ応援”まっています。

発行：ちょうふ環境市民会議

現在、調布市環境政策課、市内各図書館、地域福祉センター、郷土博物館、曼珠園さん、みさと屋さん、…などに置いてあります。

次号は10月の初めに発行予定です。